

# 南部靖之氏寄贈の兵馬俑（複製）について

本学校友である株式会社パソナグループ代表の南部靖之氏から、中国秦始皇帝陵の兵馬俑（複製）2体が大学に寄贈された。本学の教育・研究に資する資料として貴重なものである。



図1 兵馬俑（複製）

秦時代（紀元前221～紀元前207）の始皇帝による中国統一がその後の中国文明の発展にきわめて大きな役割を果たした。度量衡、貨幣、文字の統一は中国のみでなく、広く東アジア全体に影響を与えている。その絶大な権力と広大な世界観は始皇帝陵の兵馬俑に象徴されているといえよう。

兵馬俑の俑とは副葬品として死者に奉仕する生身の人間に代えて、木や土等で作った人形のことを指す。そのうち、兵士や馬などをかたどったものを兵馬俑という。始皇帝は秦の王になると（紀元前247）、古来の習慣にならって自らの陵墓の築造工事を始め、同時に副葬品の兵馬俑を制作させた。

兵馬俑を配置する兵馬俑坑は中国陝西省臨潼県驪山の北麓に位置し、省都の西安市から東へ35kmのところにある。1974年3月に発見され、現在も発掘作業が継続されているが、将軍や兵士、馬など等身大の俑が出土し、その配列の密度から兵馬俑全体の数はおよそ8000体とも推定される。

## 施 燕

坑は4基あり、発見した順序に基づいて一号坑、二号坑、三号坑、四号坑と名づけられた。俑のある坑はそれぞれ軍構成が異なり、一号坑は



図2 三号坑

40近くの戦車に指揮される6000人以上の歩兵が主体となり、全体的に四方を横隊でかためた巨大な長方形の軍陣である。それに対して、二号坑は歩兵、車兵、騎兵を組み合わせている。ただ、軍陣の配置になっていないため機動力のある精鋭部隊ではなく、兵士の集まる軍営だと考えられている。後方に位置する三号坑は戦車1輛と66人の歩兵からなり、発見当時は一号坑と二号坑の司令部だと考えられていたが、動物の骨が多数発見されたため、その役割は不明となっている。また、四号坑は兵馬俑が配置されておらず、築造が中断されたものと考えられている。



図3 一号坑の横隊

兵馬俑坑から出土する俑は極めて写實的に表現されている。各個体はそれぞれ容貌が個性的なだけでなく、姿勢、髪型、服装、履物などによって



図4 修復中の兵馬俑(一号坑)

歩兵、車兵、騎兵の兵種や、兵士俑と武官俑の階級に分かれている。また、武官俑には上級武官（将軍）、中級武官、下級武官があり、兵士俑と武官俑とも、鎧を着たものもあれば、戦袍のみを着たものもある。さらに、たとえ同じ上級武官であっても、手に持つ兵器の種類によって姿勢がそれぞれ異なる。そのような配置は実

際の軍隊にならったと考えられている。

今回寄贈された2体の兵馬俑（複製）はいずれも鎧を着た武官俑で、上級武官（将軍）俑（図1左側）と中級武官の御者俑（図1右側）である。

そのうち、将軍俑は、左手を軽く握り、右手は何かの兵器を持っている様子で、二号坑内の西南方にある試掘区域から出土した将軍俑と同じポーズをとっている。高さは1.96mで、百万の精兵をもつ将軍ならではの風格が漂う。頭には上級武官のしるしとされるやまどりの尾をかたどった冠（鶡冠）をつけ、体に長い戦袍を2枚重ねて着て、その上に鎧を付けており、胸、背中、両肩に地位を示す紐飾りがある。履物は四角い形をして、つま先が上にそっている。この形のものはつま先が上にそればそれほど位の高さが示される。平穏な表情から経験豊富な将軍に違いないだろう。

将軍俑は始皇帝の兵馬俑の中では、出土が極めて少ない種類であり、およそ8000体のうち、未だ9体しか出土していない。

一方、御者俑は、両手を前へ斜めに伸ばして手綱をとる様子で、一号坑の東端から出土した戦車の横にいる御者俑と同じポーズである。高さは1.88mで、頭に中級武官のしるしとして板状の冠をつけ、あごの下で紐を結んでいる。目線をやや下に向け、車馬に集中しているのだろう。身に戦袍をまとい、鎧をつけ、将軍俑と同じ形の履物をはいているが、つま先は将軍俑のそれほど上にそっていない。

兵馬俑坑から出土する御者俑は兵士俑と一緒に戦車の後ろに立つのが一般的である。1輛の戦車に御者1人が中央にいて、兵士2人が両側につく、という配置である。始皇帝の軍隊における御者は、車馬を御することが主務であるが、主将が負傷した時にその代わりとなって軍隊の進退を指揮する役目も担っているため、きわめて重要な構成部分である。

秦始皇帝陵の兵馬俑坑が位置する陝西省西安市は古称を長安といい、古くは中国古代の諸王朝の都であり、今も中国西部の最大の都市で、交通機関の要衝である。かつてのシルクロードの起点として、周辺には世界遺産や文化遺跡な

どの観光名所が多数あるため、人気の観光地となっている。特に近年中国で人気の大西北（中国の北西方にある陝西省、甘肅省、青海省、ウイグル自治区と内モンゴルの一部を含む地区を指す）の旅行ルートとして外せない場所である。

筆者は2018年の夏にシルクロードを旅して、西安市を訪れた。かつて古都時代の城壁や太鼓楼のある街の風景が今も残されていて、市内に玄奘三蔵ゆかりの大雁塔や景勝の地である華清池、唐の大明宮跡などがあり、歴史感が漂いつつ風光明媚な土地柄である。



図5 秦始皇帝兵馬俑博物館



図6 兵馬俑博物館一号坑

秦始皇帝陵兵馬俑博物館は兵馬俑坑が発見されて3年後の1979年に開館され、一号坑、二号坑、三号坑と文物陳列館からなる。そのうち、一号坑、二号坑、三号坑はほぼ発掘現場そのままの状態

で展示され、文物陳列室では副葬品の銅車馬が展示されている。兵馬俑坑以外に、2011年から新たに文吏俑坑、百戲俑（舞踊、格闘、雑技など宮廷娯楽の俑）坑、石鎧甲坑、青銅水禽坑が公開されている。

寄贈いただいた兵馬俑（複製）は現在千里山キャンパスの100周年記念会館3階エントランスロビーに展示され、来館者はどなたでも観覧することが可能である。

#### 参考文献：

- 1、秦始皇兵馬俑博物館編、1999年、『秦始皇兵馬俑博物館』、文物出版社。
- 2、秦始皇兵馬俑博物院ホームページ「考古発掘」  
[http://www.bmy.com.cn/2015new/channels/500\\_2.html](http://www.bmy.com.cn/2015new/channels/500_2.html)、2019年2月1日閲覧

#### 図版出典：

- 図1 関西大学教育後援会提供  
図2～6 筆者撮影

関西大学博物館学芸員